

様式第7号

（表 面）
特 別 児 童 扶 養 手 当 認 定 診 断 書

（腎、肝疾患、糖尿病の障害用）

(ふりがな) 氏 名		生年月日		平成・令和 年 月 日生(歳)		性別	男・女
住 所		住所地の郵便番号 ()		都道 府県 郡市 区			
① 障害の原因となつた傷病名		② 傷病の発生日 平成 令和 年 月 日		③ ①のため初めて医師の診断を受けた日 平成 令和 年 月 日			
				④ 傷病の原因又は誘因 初診年月日(平成・令和 年 月 日)			
⑦ 傷病が治った(症状が固定して治療の効果が期待できない状態を含む。)かどうか。		⑤ 既存障害		⑥ 既往歴		⑧ 傷病が治っている場合 ……治った日 平成・令和 年 月 日 (推定 ・ 確認)	
						⑨ 傷病が治っていない場合 ……症状の良くなる見込 有 ・ 無 ・ 不明	
⑧ 診断書作成医療機関における初診時所見 初診年月日 (平成・令和 年 月 日)		⑨ 現在までの治療内容、期間、経過、その他参考となる事項		診療回数		年間 回、月平均 回	手術 手術名() 手術年月日(年 月 日)
⑩ 計測 (令和 年 月 日計測)		身長 (令和 年 月 日計測)	体重 (令和 年 月 日計測)	cm kg	脈 拍 回/分	王血最大 最小	mmHg mmHg
⑪ 一般状態区分表 (令和 年 月 日) (該当するものを選んでどれか1つを○で囲んでください。但し、乳幼児では、掲げた内容に相当すると考えられる状態とする。) Ⅰ 無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく、発病前と同等にふるまえるもの Ⅱ 軽度の症状があり、強い運動は制限を受けるが、歩行、軽い運動や座業はできるもの Ⅲ 歩行や身のまわりのことはできるが、時に少し介助のいることもあり、軽い運動はできないが、日中の50%以上は起居しているもの Ⅳ 身のまわりのある程度はできるが、しばしば介助がいり、日中の50%以上は就床しており、自力では屋外への外出等がほぼ不可能となったもの Ⅴ 身のまわりのこともできず、常に介助がいり、終日就床を必要としており、活動の範囲がおおむねベッド周辺に限られるもの							

障 害 の 状 態			
⑫ 腎 疾 患 (令和 年 月 日現症)		腎性網膜症又は糖尿病を合併する例では、糖尿病(⑭)の欄にも、必要事項を記入してください。	
1 臨 床 所 見		(3) 検 査 成 績 (記入上の注意を参照)	
(1) 自覚症状 悪心・嘔吐 (無 ・ 有 ・ 著) 食欲不振 (無 ・ 有 ・ 著) 頭痛 (無 ・ 有 ・ 著) 呼吸困難 (無 ・ 有 ・ 著)		(2) 他覚所見 浮 腫 (無 ・ 有 ・ 著) 貧 血 (無 ・ 有 ・ 著) 腎不全に基づく 神経症状 (無 ・ 有 ・ 著) 視力障害 (無 ・ 有 ・ 著)	
2 腎生検 所見		低 身 長 (無 ・ 有 ・ 著)	
3 人工透析療法		検査成績表	
(1) 人工透析療法の実施の有無 無 ・ 有 (血液透析・腹膜透析・血液濾過)		検査項目	
(2) 人工透析開始日 (令和 年 月 日)		夜間尿量 mg/hr・ml	
(3) 人工透析(腹膜透析除く)実施状況 回数 ・ 回/週、1回 時間		早期尿量 mg/クレアチニン1mg/gクレアチニン	
(4) 人工透析導入後の臨床経過		赤血球数 ×10 ⁴ /μl	
(5) 長期透析による合併症 無 ・ 有		ヘモグロビン g/dl	
所見		白血球数 /μl	
4 その他の所見		血小版数 ×10 ⁴ /μl	
(1) 腎移植 無 ・ 有 (有の場合は移植年月日(令和 年 月 日))		血清総蛋白 g/dl	
経過		血清アルブミン g/dl	
(2) その他		BCG法・BCP法・改良型BCP法	
		総コレステロール mg/dl	
		血液尿素窒素(BUN) mg/dl	
		血清クレアチニン mg/dl	
		eGFR ml/分	
		1日尿量 ml/日	
		内因性クレアチニン・クリアランス ml/分	
		血液ガス分析(アシドーシスの有無)	

障 害 の 状 態			
⑬ 肝 疾 患 (令和 年 月 日現症)		糖尿病又は腎臓障害を合併する例では、糖尿病(⑭)、腎疾患(⑯)の欄にも、必要事項を記入してください。	
1 臨 床 所 見		(3) 検 査 成 績	
(1) 自覚症状 全身倦怠感 (無 ・ 有 ・ 著) 発 熱 (無 ・ 有 ・ 著) 食 欲 不 振 (無 ・ 有 ・ 著) 悪 心 ・ 嘔 吐 (無 ・ 有 ・ 著) 皮膚そう痒感 (無 ・ 有 ・ 著) 有痛性筋痙攣 (無 ・ 有 ・ 著) 吐 血 ・ 下 血 (無 ・ 有 ・ 著)		(2) 他覚所見 肝 萎 縮 (無 ・ 有 ・ 著) 脾 腫 大 (無 ・ 有 ・ 著) 浮 腫 (無 ・ 有 ・ 著) 腹 水 (無 ・ 有 ・ 著) 有 (難 治 性) 黄 疸 (無 ・ 有 ・ 著) 腹壁静脈怒張 (無 ・ 有 ・ 著) 肝 性 脳 症 (無 ・ 有 ・ 度) 出 血 傾 向 (無 ・ 有 ・ 著)	
2 Child-Pughによるgrade A(5 ・ 6) B(7 ・ 8 ・ 9) C(10 ・ 11 ・ 12以上)		検査日	
3 胆道閉鎖症の治療歴 (1) 手術所見(日時: 令和 年 月 日)		検査項目	
(2) 治療経過		AST(GOT) IU/ℓ	
4 肝 生 検 無 ・ 有 検査年月日(令和 年 月 日)		ALT(GPT) IU/ℓ	
所見 グレード() ステージ()		γ-GPT IU/ℓ	
5 食道・胃などの静脈瘤 (1) 無 ・ 有 検査年月日(令和 年 月 日)		血清総ビリルビン mg/dl	
(2) 吐血・下血の既往 無 ・ 有 (回)		アルカリホスファターゼ IU/ℓ	
(3) 治療歴 無 ・ 有 (回)		血清総蛋白 g/dl	
6 肝腫瘍治療歴 無 ・ 有		血清アルブミン g/dl	
・手術 回 ・局所療法 回 ・動脈塞栓術 回		BCG法・BCP法・改良型BCP法	
・放射線療法 回 ・化学療法 回		A/ℓG比	
7 特発性細菌性腹膜炎その他肝硬変症に付随する病態の治療歴 所見		血小版数 ×10 ⁴ /μl	
		プロトロンビン時間 %	
		総コレステロール mg/dl	
		血中アンモニア μg/dl	
		AFP ng/ml	
		PIVKA-II mAU/ml	
8 治療内容 (1) 利尿剤 (無・有) (4) アルブミン・血漿製剤 (無・有) (2) 特殊アミノ酸製剤 (無・有) (5) 血 小 板 輸 血 (無・有) (3) 抗ウイルス療法 (無・有) (6) そ の 他 具体的内容		9 その他の所見 (1) 肝移植 無 ・ 有 (有の場合は移植年月日(令和 年 月 日)) 経過 (2) その他(超音波・CT・MRI検査等) (令和 年 月 日)	
⑭ 糖 尿 病 (令和 年 月 日現症)			
1 病 型 (いずれかの病型に○を付けてください。) (1) 1型糖尿病 (2) 2型糖尿病 (3) その他の型 (病名)		5 インスリン療法の自己管理状況 (1) インスリン注射の施行 □自己管理 □一部介助 □全部介助 (介助の必要な理由:) (2) 血糖値測定 □自己管理 □一部介助 □全部介助 (介助の必要な理由:) (3) インスリン量の管理等 (状態に応じた適切な対応(インスリン量の調整又は補食など) ができるかで判断して下さい。) □自己管理 □一部介助 □全部介助 (介助の必要な理由:)	
2 検査成績(記入上の注意を参照)		6 血糖コントロールの困難な状況	
検査項目		(1) インスリンによる (薬剤名) 単位/日 回/日 単位/kg(体重) (薬剤名) 単位/日 回/日 単位/kg(体重) (薬剤名) 単位/日 回/日 単位/kg(体重)	
空腹時又は随時血糖値(mg/dl)		(2) インスリン以外の治療による(具体的な治療)	
空腹・随時		4 合併症 (1) 眼の障害 有・無() (2) 神経系統の障害 有・無() (3) その他の障害 有・無()	
空腹・随時		⑮ そ の 他 の 代 謝 疾 患 (令和 年 月 日現症)	
空腹・随時		(自覚症状・他覚所見・検査成績等)	
⑯ 現時での日常生活 活動能力 (必ず記入してください)		⑰ 予 後 (必ず記入してください)	
⑱ 備 考			

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には記入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

上記のとおり、診断します。 令和 年 月 日
病院又は診療所の名称 診療担当科名
所 在 地 医 師 氏 名

注 意

- 1 この診断書は、特別児童扶養手当の受給資格を認定するための資料の一つです。
この診断書は障害者の障害の状態を証明するために使用されますが、記入事項に不明な点がありますと認定が遅くなることがありますので、詳しく記入してください。
- 2 ○・×で答えられる欄は、該当するものを○で囲んでください。記入しきれない場合は、別に紙片をはり付けて記入してください。
- 3 ③の欄は、この診断書を作成するための診断日ではなく障害者が障害の原因となった傷病については初めて医師の診断を受けた日を記入してください。前に他の医師が診断している場合は、障害者本人又はその父母等の申立てによって記入してください。
また、それが不明な場合には、その旨を記入してください。
- 4 ⑨の欄の「診療回数」は、現症日前1年間における診療回数を記入してください。(なお、入院日数1日は、診療回数1回として計算してください。)
- 5 「障害の状態」の欄は、次のことに留意して記入してください。
(1) ①～⑪及び⑮～⑰の欄は、全て記入してください。それ以外については本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には記入する必要がありません。(無関係な欄は斜線により抹消してください。)なお、該当欄に記入しきれない場合は、別に紙片をはりつけてそれに記入してください。
(2) ⑫及び⑬の欄の「1 臨床所見」の検査成績及び⑭の欄の「2 ヘモグロビンA1c及び空腹時血糖値の推移の推移」の検査成績は、過去6ヶ月間における2回以上の検査成績をそれぞれ記入してください。なお、人工透析療法を実施している人の腎機能検査成績は当該療法の導入後であって、毎回の透析実施前の検査成績を記入してください。
(3) ⑫及び⑬の欄の「1 臨床所見」の検査成績の「血清アルブミン」については、BCG法、BCP法又は改良型BCP法のいずれかに○を付してください。
(4) ⑬の欄の「2 Child-Pughによるgrade」の点数に○を付してください。
(5) ⑬の欄の「8 治療の内容」は、⑬の欄冒頭の現症日時点の内容を記入してください。また、「具体的内容」については、
(1)～(6)の治療が有る場合は、必要に応じて薬品名や(6)の内容等を記入してください。
(6) ⑭の欄の「2 検査成績」の「HbA1c」及び「空腹時又は随時血糖値」は、「空腹・随時」について該当する方に○で
過去6か月間における2回以上の検査成績をそれぞれ記入してください。
(7) ⑭の欄の「4 合併症」については、過去3か月間において病状を最もよく表している所見を記入してください。
(8) ⑭の欄の「6 血糖コントロールの困難な状況」は、意識障害により自己回復ができない重症低血糖である場合
血糖コントロールが困難な状況について、特記すべきことがあれば具体的に記入してください。
(9)⑮の欄「備考」について、①～⑰欄までに書ききれないことや、参考になる事柄があれば記入してください。